

『哲学の探求』第32号刊行にあたって

2004年7月17日・18日の二日間、東京は八王子の大学セミナー・ハウスにて、第32回哲学若手研究者フォーラムが開催されました。『哲学の探求』第32号は、そのフォーラムでのテーマレクチャーと個人研究発表に基づいたものです。

哲学若手研究者フォーラム（通称「若手フォーラム」、旧「全国若手哲学研究者ゼミナール」）は、年一回開催される合宿形式の研究発表集会です。フォーラムへの参加者の多くは大学院生およびオーバードクターで、大学、地域、専門の違いを越えて自由に議論する場を提供することを主な目的としています。また、運営にあたっては財政的な援助を受けず、参加者からの参加費だけで、参加者の承認を受けた数名の世話人（有志）によって運営されています（ただし本誌は独立会計）。

2004年度の若手フォーラムは、関東圏の大学をはじめ、東北・関西・中部・九州など、幅広い地域の大学から参加者を得て開催されました。一日目に行われたテーマレクチャーでは、田島正樹先生と納富信留先生をお迎えし、「魂の教育は可能か—自由・知識・欲望—」というテーマで発表・議論をしていただきました。先生方には引きつづいて行なわれた懇親会にも出席していただき、夜遅くまで議論に応じていただきました。また、個人研究発表では多くの発表希望者に恵まれ、多彩な分野から両日にわたって12の発表が行われ

ました。発表時間だけでなく休憩時間にも活発な議論が交わされ、なかには深夜まで続けられた議論もあったようです。フォーラムがこのように活気あるものになったのも、レクチャーの先生方をはじめ、個人研究発表者の方々、そして参加して下さった皆さまのおかげです。2004年度若手フォーラム世話人を代表して、心からお礼を申し上げます。

2005年度の若手フォーラムは、7月30日(土)・31日(日)の両日にわたり、昨年度と同じく大学セミナー・ハウスにて開催する運びとなっております。今年度のテーマレクチャーは、「認識論はどこへゆく? 2」という標題のもと、伊勢田哲治先生(名古屋大学)、一ノ瀬正樹先生(東京大学)、金森修先生(東京大学)のお三方にお話しいただく予定です。本誌にはお三方の講演要旨も掲載しておりますので、どうぞご覧下さい。皆さまのご参加をお待ちしております。なお、2005年度のフォーラムの詳細については、本誌と共に若手フォーラムのホームページ(<http://www.wakate-forum.org/>)も参照していただくか、巻末にある今年度の各世話人までお気軽にお問い合わせ下さい。

2005年2月22日

2004年度 哲学若手研究者フォーラム世話人代表
中村 麻里子